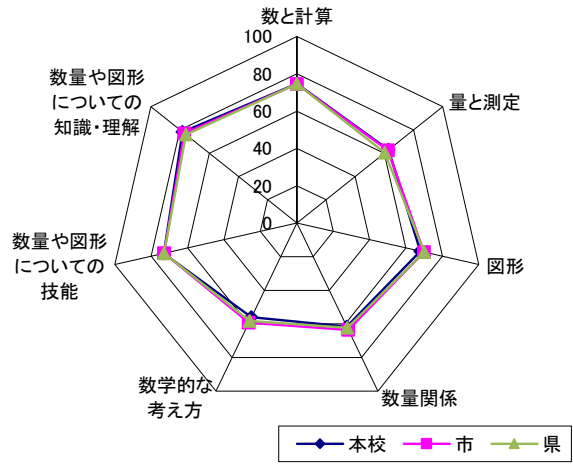


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.7	74.5	74.6
	量と測定	62.9	62.4	60.4
	図形	67.9	69.9	70.1
	数量関係	61.6	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	56.1	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	73.1	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	78.4	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○1mのテープ図を4等分した一つ分の量を表す設問の平均正答率は93.9%と高く、県の平均を5ポイント上回っている。 ●整数-小数=小数、3位数×2位数=4位数の計算をする設問の平均正答率は県の平均を4ポイント下回っており、課題がみられる。	・計算の技能の定着を図るために、授業で苦手な問題に取り組ませたり、宿題や朝の学習の時間に、ドリルやステップアップ学習、フォローアップシートを図ったりしていく。
量と測定	平均正答率は、県の平均と比べてやや高い。 ○ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める短答式の問題の平均正答率は43.4%だが、県の平均を6.7ポイント上回っている。 ●木の幹の周りの長さを図るのに適した道具を選ぶ設問の平均正答率は84.8%だが、県の平均をやや下回っており課題がみられる。	・時刻は、日常生活と密接に関連した学習内容であるため、日常的に時刻に関する問題や話題を取り入れていく。 ・巻尺の使い方について丁寧に確認したうえで、実際に授業内で測定できる体験活動を取り入れ、測定の経験をより多くさせ定着を図る。
図形	平均正答率は、県の平均と比べてやや低い。 ○正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ設問の平均正答率は80.8%で県の平均を6ポイント上回っている。 ●箱に入った同じ大きさのボールの半径を選ぶ設問の平均正答率は44.4%と低く県の平均を7ポイント下回っている。また、折り紙を2つに折って切った後広げてできる形を選ぶ問題のような数学的な考え方に関する設問も平均正答率が県の平均を5ポイント下回っており、課題がみられる。	・コンパスの使い方をていねいに確認しながら作図をしたり、球を切った切り口を予想するときには実際に切ってみたりするなど、具体物の操作や観察を通して実感的な理解を伴った学習を進めていく。 ・授業内では、グループでの話し合いや考えを書くなどの言語活動を多く取り入れ、自らの考えを整理し話す場面を多く設定する。
数量関係	平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○□を用いた乗法の式に適した場面を選ぶ問題の平均正答率は74.7%だが、県の平均は6ポイント上回っている。 ●棒グラフからわかることとして正しい内容を選ぶ設問の平均正答率は58.6%と県の平均を7ポイント下回っており課題がみられる。	・社会や理科など他教科での学習や学校生活の様々な場面で、表やグラフをよんだり表したりする活動を取り入れることで、表やグラフをみることに慣れ、正しく読み取る力を育てていく。